

逐次型データ同化手法による津波即時予測

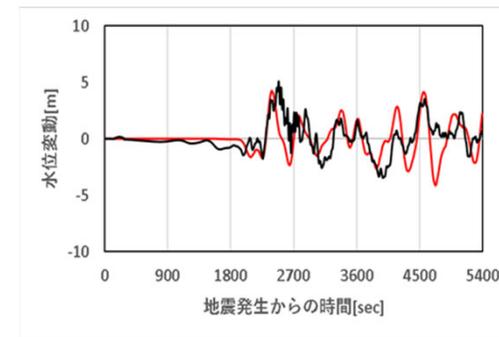
和歌山高専 環境都市工学科 小池 信昭

目的：逐次型データ同化手法を用いて、津波予測シミュレーションによる予測値を沖合に設置された海底津波計の観測データに同化させて、沿岸部での津波即時予測の精度を向上させることを目的としている。

内容：逐次型データ同化手法のアンサンブルカルマンフィルタを用いて、地震や海底地すべりで発生する津波がデータ同化によって予測精度が向上するのかどうかを調べた。

結果：すべてのケースで予測精度が向上するわけではないが、対象とする津波の波源がアンサンブルメンバーに近い場合は、予測精度が向上することがわかった。

利用した計算機	SQUID 汎用CPUノード群
	ノード時間 1000 時間
	使用メモリ 10 GB



図（徳島県M町における予測と観測値の比較）